

29 執

春

一は無名作家の所著せる備忘録の類ありん
 か。何人のものあるや署名ありければ知るに
 よしあり。落し主わからぬ届けんと思へど
 も、今に手加かりあり。わが該帳の筆者の
 思案を^{定規} ~~...~~ ^に 画しく意地と独断との
 一筋張り ~~...~~ ^且 可なり常識的なり。常
 識は^{これ} 天才意識熾烈なる藝術家の畧も増みて
 排斥するものなるか、その常識は亦畧も藝
 術家に缺乏せるところのには常にあら
 ざるか？ われ近來の文壇を窺ふて特に

No. _____

相馬屋敷

23

一夜 ^{人なき} 路上をさまよひりくわか足に、不
 圓打当れるものあり。泣視ある時、後、と水
 を捨ち上げ、街燈の仄明りに照し尺水は、
 置筆表紙の手帳一冊。巻頭に題して意地張
 帳とあり。好奇心の動 ^{きけるまゝ} わか符
 は携へ帰りて抱えす ~~...~~ しるすところ
 悉く初めらるる文学的文学なり ^{けり} 知ら

意地張帳

森本義丈

No. _____

相馬屋敷

湯